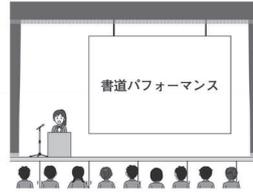


国語 1 スピーチをする（書道パフォーマンス）

1 第一中学校の三年生は、卒業生から学ぶ会を開いています。その中で、高校生の橋本さんが、書道パフォーマンスについて動画を用いて話しています。次の「橋本さんの話」、「場面②で映している画面」、「場面③で映している画面」を読んで、あとの問いに答えなさい。



【橋本さんの話】

場面①
皆さん、こんにちは。青空高校の橋本です。今日は、私が所属する書道部で行っている書道パフォーマンスの魅力についてお話しします。書道パフォーマンスでは、複数のメンバーで、一つの作品を書き上げます。これが、書道パフォーマンスの魅力だと私は思います。
早速ですが、四月の新生活迎会で私たちが行った書道パフォーマンスの様子をご覧ください。

書道パフォーマンスの動画を途中で視聴する。

場面②

（ここで一度止めます。書道パフォーマンスでは、このように教室の半分ぐらいのとても大きな紙を使います。このとき私は、真ん中の文字を担当しました。私が使っている筆は墨を吸うとかなりの重さになり、文字を書くのがとても大変です。他のメンバーも皆、それぞれ担当する文字に集中し、体全体を使って書いています。それでは、私たちの動きに注目して、作品が完成するまでの様子をご覧ください。

書道パフォーマンスの動画を最後まで視聴する。

場面③

いかがでしたか。今映し出されている作品の言葉は、メンバーで話し合い、新入生を花のつぼみにたとえ、笑顔の花が咲くことを願って選びました。それから、一つの作品として文字の調和をとることを大切にしました。メンバー五人が、それぞれ自分の書きたいように書いていて、よい作品にはなりません。そのため、中学校の授業で学んだ行書の特徴を確認しながら、何度も練習しました。
このように、私はメンバー全員で力を合わせて一つの作品を作り上げることに魅力を感じています。皆さんにも、書道パフォーマンスの魅力が伝わり、興味をもってもらえるとうれしく思います。



【場面③で映している画面】

【場面②で映している画面】

- 橋本さんの動画の活用仕方について説明したものとして最も適切なものを、次の1から4までの中から一つ選びなさい。
- 聞き手に動画の内容と同じ動作をしようために、動画を静止させたり流したりして話している。
- 聞き手に注目してほしい内容を説明するために、必要な場面を動画を静止させて話している。
- 聞き手に言葉では表現しきれない内容を伝えるために、一度示した場面を繰り返し流して話している。
- 聞き手に自分の話に集中してもらうために、内容に応じてところで画面の映像を消して話している。

二 場面③に「線部（中学校の授業で学んだ行書の特徴）」がありますが、次の○で囲まれた部分の①と②の特徴の組み合わせとして最も適切なものを、あとの1から4までの中から一つ選びなさい。

【場面③で映している画面】



- ① 筆順の変化 ② 点画の連続
- ③ 点画の省略 ④ 直線的
- ⑤ 点画の省略 ⑥ 点画の連続
- ⑦ 筆順の変化 ⑧ 直線的

2. 調査問題の活用にあたって

設問三 の趣旨を生かした学習指導の工夫

■学習指導要領における領域・内容

〔第1学年〕 A 話すこと・聞くこと

イ 全体と部分、事実と意見との関係に注意して話を構成し、相手の反応を踏まえながら話すこと。 《話すこと》

■学習指導要領に示されている言語活動例との関連

〔第1学年〕 A 話すこと・聞くこと

ア 日常生活の中の話題について報告や紹介をしたり、それらを聞いて質問や助言をしたりすること。

(1) 言語活動を通じた学習指導の工夫について

- 第1学年「A 話すこと・聞くこと」(1)イについて、日常生活の中の話題について報告や紹介をしたり、それらを聞いて質問や助言をしたりする言語活動を通して指導する際には、伝える事柄や事実と、それに対する自分の考えや感想などとの関係に注意して話すように指導することが大切である。また、何のために報告したり紹介したりするのかという目的や、相手はその話題についてどのような点に関心があり、どのような情報を既にもっているかなどの状況によって、報告や紹介の仕方が変わってくることに留意するように指導することも重要である。実際に報告したり紹介したりする場面では、聞き手から質問したり、内容や伝え方について助言し合ったりする場を設け、表現の仕方や聞き方を互いに学び合うことができるように指導することが大切である。
- 指導にあたっては、以下のものも参考になる。
 - ・ 平成22年度【中学校】授業アイデア例 P. 5 「作成した資料を目的や相手に応じて再構成し、その理由を説明することができるようにする。」
 - ・ 平成22年度【中学校】報告書 P. 169 「作成した資料を目的や相手に応じて再構成し、その理由を説明することができるようにする。」
 - ・ 4年間のまとめ【中学校編】 P. 88 「作成した資料を目的や相手に応じて再構成し、その理由を説明することができるようにする。」
 - ・ 平成30年度【中学校】授業アイデア例 P. 7～P. 8 「テーマに沿って、調べたことや考えたことを発表しよう」
 - ・ 言語活動事例集【中学校版】 P. 19～P. 20 『『体験入部』の報告をしよう』

(2) 授業アイデア例について

- **授業アイデア例Ⅰ**では、卒業生である高校生のスピーチ（【橋本さんの話】）を聞いて、そのスピーチに対するお礼の言葉を述べるという本設問の場面設定を活用した授業アイデア例を示した。スピーチから分かったことと、自分の感じたことや考えたことに留意して話を構成したり、何名がお礼の言葉を述べるのかという点に配慮しながら話の内容を工夫したりすることを通して、目的や場面に応じて、事実と意見との関係に注意して話を構成し、自分の考えが相手に分かりやすく伝わるように話す力を身に付けることをねらいとする。

- **授業アイデア例Ⅱ**では、新入生に対して中学校生活の魅力を紹介するためにスピーチをするという言語活動を取り入れた授業アイデア例を示した。新入生に紹介したい内容を付箋に書き出し、グループごとに複数の構成案について検討したり、学級でスピーチのリハーサルを行ったりすることを通して、目的や場面に応じて、事実と意見との関係に注意して話を構成し、自分の考えが相手に分かりやすく伝わるように話す力を身に付けることをねらいとする。

授業アイデア例 I

【指導のねらい】

目的や場面に応じて、事実と意見との関係に注意して話を構成し、自分の考えが相手に分かりやすく伝わるように話すことができるようにする。

【授業アイデア例】

教材

● 令和2年度全国学力・学習状況調査【中学校】国語¹

学習の流れ

第1時

① 学習の見通しをもつ。



教師

スピーチに対するお礼の言葉を考えてみましょう。スピーチから分かったことと、自分の感じたことや考えたことが分かりやすく伝わるように、話の構成や文末表現などを工夫しましょう。

② 令和2年度全国学力・学習状況調査【中学校】国語¹を読み、どのような場面や状況かを確認する。

※ スピーチをする人を決め、【橋本さんの話】に基づいて実際にスピーチをしたり、インターネットを活用して、書道パフォーマンスの動画を視聴したりすることも考えられる。

③ 【橋本さんの話】に対するお礼の言葉を考え、各自でノートにメモする。

【Aさんのメモ】

橋本さんのお話から、書道パフォーマンスではとても大きな紙を使うことが分かって驚きました。高校生になったら書道部に入りたいと思います。ありがとうございました。

【Bさんのメモ】

私は吹奏楽部に所属していて、聴いている人たちに感動を与えるような演奏をしたいと考えています。そのためには、橋本さんのお話にあったように、メンバー全員で力を合わせる大切なのだと改めて分かりました。

【Cさんのメモ】

橋本さん、本日はありがとうございました。橋本さんのお話を伺って、メンバー全員で力を合わせて一つの作品を作り上げる書道パフォーマンスの魅力がよく分かりました。私たちも、協力して学校行事などに取り組み、充実感を味わいたいです。

④ ③で書いたお礼の言葉をグループで検討する。

【検討している場面の例】



Aさん

私も高校で書道部に入りたいと考えましたが、それは【橋本さんの話】にある「メンバー全員で力を合わせ」ることがすばらしいと思ったからです。印象に残った書道の道具のことより、BさんやCさんのように「メンバー全員で力を合わせ」ことを取り上げた方が私の考えが伝わりやすいと思ったので、修正しようと思います。

「メンバー全員で力を合わせ」ことを取り上げたのは、私が【橋本さんの話】の中で最も共感したことであり、「橋本さん」が聞き手に伝えたいことだと思ったからです。ところで、私は自分が考えたことを先に述べましたが、AさんやCさんのように、【橋本さんの話】から分かったことを先に述べた方がよいのでしょうか。



Bさん



Cさん

Bさんは、先に自分の考えを示した上で、それを実現するためには何が大切なのかを【橋本さんの話】と関連させて述べているんですね。そのことが分かるので、Bさんのような話の構成もよいと思います。

第2時

- ⑤ お礼の言葉を述べる状況が異なる場合に留意すべきことを各自でノートに書き、グループで検討する。



代表の生徒一人がお礼の言葉を述べるのではなく、一人のスピーチに対して複数の方がお礼の言葉を述べる場合には、どのようなことに留意する必要があるでしょうか。

【検討している場面の例】



複数の方がお礼の言葉を述べる場合には、自分より前に話した人と全く同じ内容にならないように気を付ける必要があると思います。



前の人と同じ内容を述べる際には、「〇〇さんの話と重なりますが」などの前置きをして、重複する部分があることに触れながら話すといいのではないのでしょうか。



一人一人が端的に述べ、全体の時間が長くなり過ぎないように留意することも必要だと思います。

- ⑥ ④、⑤で検討したことを踏まえ、グループ内でお礼の言葉を述べる。
⑦ 学習を振り返る。

【活用のポイント】

- 本授業アイデア例は、第3学年「A 話すこと・聞くこと」(1)イを指導することを想定した授業の流れを示している。設問三で取り上げた指導事項の定着に課題が見られる場合には、③、④に示したように、これまでに学習したことを想起し、スピーチから分かったことと、自分の感じたことや考えたことをどのように配列して話の全体を構成するかを考えたり、文末表現などにも注意して事実と意見との関係を明らかにして話したりするように指導するとよい。第3学年の評価に当たっては、③～⑥で、場の状況に応じた話し方ができているかについて、ノートに書いた内容やグループでの検討の様子などを基にして評価することが考えられる。

【他学年で活用する際のポイント】

- 第1学年で、設問三で取り上げた指導事項について指導する場合には、③、④を中心に授業を行い、ノートに書いた内容やグループでの検討の様子などを基にして評価することが考えられる。
- 第2学年で、設問三で取り上げた指導事項の定着に課題が見られる場合には、③、④を中心に授業を行うとよい。また、第2学年「A 話すこと・聞くこと」(1)イの指導事項を取り上げ、論理的で分かりやすい話の構成や展開の工夫について考えるように指導し、ノートに書いた内容やグループでの検討の様子などを基にして評価することが考えられる。

授業アイデア例Ⅱ

【指導のねらい】

目的や場面に応じて、事実と意見との関係に注意して話を構成し、自分の考えが相手に分かりやすく伝わるように話すことができるようにする。

【授業アイデア例】

学習の流れ

第1時、第2時

① 学習の見通しをもつ。



教師

新入生に対して、中学校生活の魅力を紹介するためにスピーチをします。グループごとに題材を選び、紹介する内容を考えたり、話の構成について検討したりしながら、5分程度のスピーチにまとめましょう。

② 新入生に紹介する題材をグループごとに一つ選ぶ。

③ 紹介したい具体的な事柄を各自で付箋に書く。

【「各教科等の紹介」についての例】

中学校で学習する各教科等の名称。

1週間の時間割。

学校図書館を活用したり、インターネットで情報を検索したりする学習があること。

各教科担当の先生の紹介。

教科書が小学校より比較的厚くなること。

総合的な学習の時間では、学年ごとに特色ある学習をしていること。

タブレットPCを使って資料を見たり、互いの考えを交流したりする学習があること。

国語や外国語などの学習で、辞書を頻繁に活用すること。

④ ③の付箋を基に、スピーチの構成についてグループで検討する。



複数の構成案を考え、比較しながら検討しましょう。また、自分たちの思いや考えを青色の付箋に書いて加えたり、提示する資料が必要かどうかについて考えたりしましょう。

【構成案の例】

<構成案A>

各教科等の学習の楽しさや充実感。

各教科担当の先生の紹介。

学校図書館を活用したり、インターネットで情報を検索したりする学習があること。

国語や外国語などの学習で、辞書を頻繁に活用すること。

<構成案B>

中学校で学習する各教科等の名称が変わり、教科書も小学校より比較的厚くなること。

各教科担当の先生の紹介。

1週間の時間割。

総合的な学習の時間では、学年ごとに特色ある学習をしていること。

授業を楽しみにしてほしいというメッセージ。

※ ③、④について、ICT機器を活用して学習することも考えられる。

【検討している場面の例】



<構成案A>のように、自分たちの思いを最初に述べると、新入生に各教科等の学習が中学校生活の魅力の一つだと印象付けることができると思います。また、学校図書館やインターネットを活用した学習については、実際の写真を提示すると、様子が伝わりやすいと思います。

<構成案B>は、事前に出された二つの付箋について、「中学校で学習する各教科等の名称が変わり、教科書も小学校より比較的厚くなること。」とまとめていて、小学校の学習との違いを比較しやすくしてほしいと思います。しかし、魅力を伝えるという目的を考えると、この内容で十分でしょうか。



魅力をより具体的に伝えるために、各教科の先生にそれぞれの教科の面白さについて取材し、「各教科担当の先生の紹介。」に加えてはどうでしょうか。そうすることで、<構成案A>も<構成案B>も目的に沿った内容になります。

第3時

- ⑤ ④で考えた複数の構成案に基づいてグループ内でスピーチをし、どの構成案を採用するのかを決める。

ポイント

複数の構成案に基づいてグループ内でスピーチをし、どの構成案を採用するのかを決めましょう。その際、聞き手が新入生であることを意識した話し方を工夫しましょう。



第4時

- ⑥ 学級でスピーチのリハーサルを行い、よい点や改善点について他のグループと交流し、必要に応じて自分たちのスピーチを修正する。

- ⑦ 学習を振り返る。

※ ①～⑦の学習後に実際に新入生にスピーチをする。

【活用のポイント】

- 本授業アイデア例は、第3学年「A 話すこと・聞くこと」(1)イを指導することを想定した授業の流れを示している。設問三で取り上げた指導事項の定着に課題が見られる場合には、③～⑤に示したように、これまでに学習したことを想起し、紹介したい事柄と自分たちの思いや考えをどのように配列して話の全体を構成するかを考えたり、文末表現などにも注意して事実と意見との関係を明らかにして話したりするように指導するとよい。第3学年の評価に当たっては、③～⑥で、場の状況に応じた話し方ができているかについて、グループでの検討の様子や学級でのリハーサルの様子などを基にして評価することが考えられる。

【他学年で活用する際のポイント】

- 第1学年で、設問三で取り上げた指導事項について指導する場合には、③～⑤を中心に授業を行い、付箋に書いた内容やグループでの検討の様子などを基にして評価することが考えられる。
- 第2学年で、設問三で取り上げた指導事項の定着に課題が見られる場合には、③～⑤を中心に授業を行うとよい。また、第2学年「A 話すこと・聞くこと」(1)イの指導事項を取り上げ、論理的で分かりやすい話の構成や展開の工夫について考えるように指導し、付箋に書いた内容やグループでの検討の様子などを基にして評価することが考えられる。